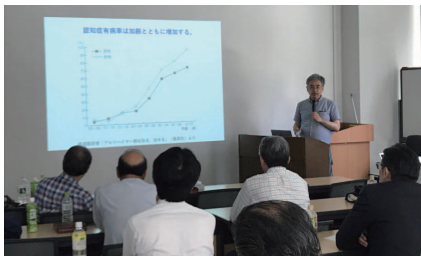


「認知症と口腔機能研究会」 が設立、会長に窪木岡山大 学教授が就任



西道隆臣氏による講演。

9月27日(木)、岡山大学は「認知症と口腔機能研究会」が設立されたことにともない、代表世話人の窪木拓男氏(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野教授)が会長に就任したことを発表した。

近年、歯の欠損があるが適切な補綴歯科治療を受けていない人では、将来認知症と診断される可能性が高くなることが疫学調査によってさらに明らかになっており、認知症と口腔機能の関連について基礎研究者と臨床家とが積極的に情報交換を行う場として、全国

の専門家26名が中心となった研究会が設立された。

本研究会の設立に先立ち、8月5日(日)にキャンパス・イノベーションセンター東京において、設立準備委員会が開催され、代表世話人に窪木氏、平井敏博氏(北海道医療大学教授)、姜英男氏(大阪大学大学院人間科学研究科招聘教授、ソウル大学)が選出され、会長に窪木氏が任命された。その後、西道隆臣氏(理化学研究所神経老化制御研究チーム チームリーダー)、姜氏、山本龍生氏(神奈川歯科大学大学院歯

学研究科教授)より、本分野に関する講演が行われ、最新情報が披露された。講演後は本分野の将来や可能性について活発な議論がなされた。

今後、本研究会では、認知症の危険因子となる口腔機能の低下や障害が関連脳神経の変異を引き起こすメカニズムを解明するとともに、口腔機能の維持や歯科疾患の治療が認知症の予防や改善につながる可能性を明らかにしていくとのこと。

なお、第1回学術大会は窪木氏が大会長を務める予定。